

中  
2026

国

語

始める前に左の注意事項を読みなさい。

- 始めの合図があるまで開いてはいけません。
- 問題は全部で26ページあります。
- 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 始まりの合図で、解答用紙に受験番号、氏名を書きなさい。
- 質問のあるときは静かに手をあげ先生の指示を待ちなさい。
- 終わりの合図があったら、ただちに筆記用具を置きなさい。

(第3回)



一 次の文章を読んで後の問いに答えなさい

ぼく（圭太）は成績優秀でスポーツも得意だった。ママも都会的な子だと自慢していたが、五年生になり新任の松原先生のぼくに対する評価は厳しかった。保護者面談後、松原先生からの言葉が気になったママは、ぼく  
の性格を何とかしようと「父と息子のふれあいサマーキャンプ」という企画をぼくとパパに勧めた。ぼくは気が  
進まなかったが乗り気になった。パパと参加することになってしまった。（注 本文には、現代用語として適切では  
ない表現がいくつかあるが原文のまま表記する）

笑いながらふと顔を上げると、パパと目が合った。パパはもう笑っていないかった。怒っているというほどじゃ  
なかったけど、なにかあきれたような、まいったなあというような顔でぼくを見ていた。

「圭太、ほんとに、キャンプ楽しいか？」

「うん……楽しいよ」

「じゃあ、もつと楽しそうな顔しろよ」

「笑ったじゃん」

「でもなあ、ちよつとおまえ、<sup>①</sup>そういう笑い方やめたほうがいいぞ。なーんかパパ、バカにされたような気が  
しちゃうんだよ。友だちに言われたりしないか？ おまえに笑われたら傷つくって」

ぼくは黙って首を横に振った。嘘じゃないけど、ちよつとだけ嘘かもしれない。友だちは「傷つく」とは言わ  
ないけど、ときどき「むかつく」と言う。

でも、ぼくはパパをバカにして笑ったつもりはない。今日だって、いろんなことがあったけど、楽しかった。

一学期の通知表のことを思い出した。生活の記録に「もつとがんばりましょう」が二つあった。へクラスのみんなと協力しあう」と、「明るく元気に学校生活をすごす」が、どっちもだめだった。

個人面談につづいてショックを受けたママに、ぼくは「②こんなの松原先生の主観なんだもん、関係ないよ」と、また先生の嫌いそうな言葉をつかって言った。「中学入試は内申点なんて関係ないんだし、世の中にはいろんなひとがいるんだもん、たまたま松原先生とは気が合わないだけだよ」とも言った。励ましてあげたつもりだったのに、ママはぼろぼろと涙を流してテーブルに③突っ伏してしまった。パパはそのことを知らないはずだ。晩ごはんまで立ち直ったママが「これ、まいっちゃった」と通知表を見せると、「圭太は④誤解されやすいタイプなんだよなあ」と笑っていた。(a)

そうだよ——と思った。パパだって、いま、ぼくのことを⑤誤解してるんだ。

「ねえ、パパ」

「うん？」

「ぼくってさあ、誤解されやすいタイプなんだよ、きつと」

終業式の日パパが言った言葉をそのまま返したのに、パパは困ったような顔で笑うだけで、「そうだな」とは言ってくれなかった。

急に⑥氣詰まりになって、腕を虫に刺されたふりをして「スプレーしてくる」とテントに戻った。

パパのリュックをかただけ探っていたら、マジックテープで留めた内ポケットの中に、書類が入っているのを見つけた。グラフや表のぎっしり並んだ、よくわからないけど仕事の書類のようだ。

こんなところで仕事なんかできるわけないのに。アウトドアをなめてるんだよなあ、パパって。

笑った。(b)

テントから出ると、パパは夜空を見上げて「もう寝るか」と言った。あくびをする背中が、ちよつと寂しそうに見えた。

次の日は、朝からコドモたちだけで河原に出かけた。

五人一組で班をつくった。メンバーは全員ぼくと同じ五年生だったけど、学校の同級生だったらぜーつたいに仲良くなりたくないタイプの奴らばかりだ。

なんでこんなにすぐに大声出すんだ？　なんで無意味にダッシュしたがるんだ？　体を動かさずにはいられないって？　心臓が動いてりゃ、それでじゅうぶんじゃないの？

おまけに、ぼくたちの班のリーダーはリッキーさんだった。

「ヘーイ、どうした、元気ないぞお、もやしっ子。狭っ苦しい都会で背負い込んだストレスなんてパーツと捨てちゃえばいいんだ。昨日配った歌集があるだろ、その六ページ、『フニクリ・フニクラ』を歌おう！　さん、にー、はいっ！」

リッキーさんは意地でもぼくを「わんぱく」にしたいらしい。東京のマンション暮らしで、ちよつとスリムな男の子は、みんな「もやしっ子」ってわけ？　ちよー単純。

歩きながら、ゆうべのパパを思いだして空を見上げた。陽射しひざはそれほど感じなかったけど、雲ひとつなく晴れ渡った空の、青い色がまぶしい。

東京の天気はどうだろう。もうアスファルトがじりじりと熱くなっている頃だろうか。

いつもなら、この時間は塾の日曜模試を受けている頃だ。日曜日は忙しい。朝七時に家を出て、電車に乗って都心の塾に向かい、模試が終わってまっすぐ帰っても夕方近い。

「せつかくの日曜日なのに……」とリッキーさんなら言うだろう。松原先生でもきつと言うはずだ。

でも、塾の模試はめちゃくちゃ難しい問題ぞろいだけど、やる前から百点が見えている学校のテストよりずっとおもしろい。試験の出来に自分でも手ごたえがあるとき、塾のビルから出て空を見上げると、思わずその場でジャンプしたくなる。お酒なんて飲んだことはないけど、ビールのコマーシャルの、あの「サイコー！」っていう気持ちよさと、けっこう似てるんじゃないかな、とも思う。(c)

リッキーさんや松原先生の好みには合わないかもしれない。でも、「そんなの間違ってる」なんて言われたいくない。本人が「サイコーだ」って言ってるんだから、それでいいじゃん……。

上を向いて歩いていたら、みんなから遅れてしまった。

「おーい、もやしっ子、チームワーク、チームワーク！」

リッキーさんはぼくを振り向いて、<sup>か</sup>駆け足のポーズで言った。笑っていた。リッキーさんは松原先生ほど短気じゃないようだ。でも、笑えば笑うほど、いろんなことが<sup>うそ</sup>嘘っぽく感じられる。(d)

歩きながら、まわりの風景を見渡した。目に見えるものはほんものの空や山や森や草原なのに、<sup>㉑</sup>それをまとめて「大自然」と言われたら、ぜんぶつくりものみたいに見えるの、なんでだろう。

河原で拾った小石にアクリル絵の具で色をつけろと言われた。ストーン・ペインティングというらしい。

「石って、いろんな色や形をしてるだろ？ 象に見えたり、魚みたいだったり、電話機みたいだったり。自由な発想で、さあ、君はこの小石からどんな隠れキャラを見つけてるかな。レーツツ・チャレンジ！」

バカらしくなって、テキトーに拾った小石を茶色に塗りつぶした。

「へーい、もやしっ子、なんだい？ それは」

「うんこ」

「は？」

「うんこに見えたんだもん」

ギャグだよ、シャレだよ、ボケたんだよ。

でも、リックキーさんはツッコミを入れてくれなかった。なにか信じられないものを見てしまったような顔になって、ゆつくりとポケットからイエローカードを取り出した。

ほらみる。リックキーさんの言う「自由な発想」って、「ここからあそこまで」が決まってるんじゃないか。だって、なんで「(1)」なんて言葉をつかうんだろう。

ストーン・ペインティングが終わると、川の浅瀬に手作りの<sup>※1</sup>築<sup>やな</sup>を仕掛けて魚を捕った。<sup>※2</sup>肥<sup>ひごのかみ</sup>後守<sup>ごごもり</sup>を使って魚をさばく方法を教わった。カマドを組んで火をおこし、ブリキ缶を使って魚を<sup>※3</sup>燻<sup>くんせい</sup>製にした。

ひとつずつの体験はおもしろかった。でも、リックキーさんが「どうだい、テレビゲームの一万倍ぐらいおもしろいだろ？ 男の子は、やつぱり自然を遊び場にしくちや」なんて言うたびに、気持ち冷めていく。

アウトドアもおもしろいけど、テレビゲームだっておもしろい。それでいいんじゃないの？ なんで比べるわけ？ 遊び場なんてどこでもいいじゃん。マンションの駐車場で遊ぶのも楽しいし、ノートパソコンがあれば一日中たっぷり遊べる。なんで(2)が「やつぱり」なわけ？ 「しくちや」って決めつけるわけ？

そんなふうを考えてしまうのって、ひねくれた「もやしっ子」だから？ 「わんぱく」なコドモはそんなこと考えたりしない？

今度、塾の日曜模試で「わんぱく」の同義語を書く問題が出たら、「(3)」と書いてみようかな……。

空が少しだけ夕方の茜色<sup>あかねいろ</sup>に染まりかけた頃、キャンプ場に戻ってきた。

パパがいた。ほかの父親といっしょに、今夜のキャンプファイアーのメインイベント、子牛の丸焼きの準備を

していた。

といつても、正確には「いっしょに」じゃない。ほかの父親はみんな、レンガでカマドを組んだり薪まきを割ったりタープを張ったりしているのに、パパだけ仕事がない。人数の要いる力仕事を見つけたらメンバーに交ませてもらって、<sup>⑧</sup>へっぴり腰こしでくつつくけど、それが終わるとまたひとりぼっちに戻って、近くのゴミを拾ったり、タオルで汗を拭ぬぐいたりするだけだ。

とびつきり不器用で、腕力がなくて、なによりアウトドアの超初心者のパパだ。しかたないといえば、しかたない。へたに難しい仕事をやらされたら、ぜーったいに恥をかくし、みんなに迷惑をかけてしまうだろう。むだな努力は、しないほうがいい。それがお互いのため。ぼくは知ってる、こういうの、「 $\wedge$  X  $\vee$ 」っていうんだ。

頭ではちゃんと納得できる。でも、パパの背中を見ていると、おなかの奥のほうが重くなってしまう。たまに家族三人でデパートに出かけて、屋上のゲームコーナーで遊ぶときには、めちゃくちゃ張り切るパパなのに。ほんとうかどうかは知らないけど、「ウチの営業所はオレがいないとアウトだからなあ」なんてママに自慢してるパパなのに。

ログハウスの裏手から、丸太が運ばれてきた。パパは待つてましたというふうふうに駆け寄ったけど、人数は足りているみたいで、<sup>\*4</sup>アポロキャップをかぶったヒゲづらのオッサンに、そっけない手振りてしで手伝いを断られた。

「あ、どうもどうも、そうですか」なんて声が聞こえてきそうなくさで会あ積せきしながら引き下がるパパの背中せなかは、何十人もいる父親の中でいっとうしぼんで見えた。

ヒゲづらのオッサンに文句を言いたくなくなった。手伝わせてやればいいじゃん、一人増えたからって、べつにいいじゃんよ、ウチのパパのこと、シカトすんなよ……。

パパはタオルでまた顔の汗を拭いて、こつちを見た。

ぼくに気づくと一瞬ピクツと肩を動かして、それから笑った。

おう、圭太、がんばってるか——なんていうふうには、無理して。

⑨ ぼくは顔をそむけ、班分けして以来初めて、自分のほうからみんなの輪に入っていった。

オトナが子牛の丸焼きの準備をしている間、ぼくたちはターザンごっこをすることになった。

もやい結びで太い枝に結わえつけたロープを両手でつかんで、勢いよく体を投げ出す。

「ア—ア、ア—ッ！」

出るぞ出るぞと思っていたら、やっぱりリッキーさんはターザン・シャウト付きのお手本を見せた。

班のメンバーも、大声を出しながらロープに乗って跳んでいく。恥ずかしくないんだろうか、こいつら。

⑩ デリカシーつてもものをまったく持つてないんだろうか。

ぼくの番が来た。

「おっ、次は、もやしっ子か？」

ロープをぼくに渡すリッキーさんの顔と声は、はっきりとわかる、オレはおまえみたいなガキは大嫌いなんだ、と伝えていた。

べつにいいさ。ぼくだって、あんたみたいはオトナは大っ嫌いだ。

「怖くても『ママ—！』なんて言っちゃダメだぜ」

言わないよ、バーカ。

ロープを両手で握りしめて、跳んだ。声なんか出すもんか。ぼくは確かにひねくれてるのかもしれないし、コドモらしくないのかもしれない。でも、ぼくは、ぼくだ。

ロープがピンと張って、ぼくの体は振り子みたいに地面すれすれのところから持ち上がっていく。サイコーの

タイミングで手を離して、誰よりも遠くまで跳んでいってやろう。負けない、あいつらになんか――。

あとちよつと、のところでパパの姿が見えた。みんなから離れて、ひとりぼっちで、組み上がったカマドのまわりのゴミを拾っていた。

目をそらしたら、いっしょに体のバランスも崩れた。ロープをつかんだ手が滑る。

ヤバイ――と思った瞬間、体がふわつと軽くなった。

まっさかさまに、落ちた。

ケガといつても、たいしたことじゃない。地面に落ちるときに腰を打ち、てのひらを擦りむいた、それだけだ。でも、リッキーさんたちはあわてふためき、担架たんかでぼくをログハウスの宿直室に運び込んだ。レントゲンだけの傷害保険だのといった言葉が、ドアの向こうから聞こえてくる。

いや、リッキーさんたちは、ぼくを心配しているだけじゃなかった。

「とにかく、参加しようとする意志が見られないですよね。なにをやってもつまらなさそうな態度で、こつちが盛り上げようとしても、ぜんぜんノってこないんですから。」

「はあ……どうも、すみません……」

パパの声が聞こえて、ぼくは体を起こした。腰がズキッと痛む。やつぱり、けつこう、ひどいケガなのかもしれない。

「シラけたポーズがカッコいいんだと思ってるのかもしれないませんが、そんなのね、しよせん小学生が斜に構えるだけなんですから、ぼくから見るとあきれるしかないんですよ」

しよせん――とリッキーさんは言った。

ふうん、とぼくは腰を手で押さえたまま、黙ってうなずいた。なるほどね、そうなんだ、ふうん。何度もうな

ずいた。終業式の日に通を表を渡されて、へもつとがんばりましょう」を見つけたときも、こんなふうにならずにいたような気がする。

『わんぱく共和国』に来てからずつと感じていた嘘っぽさは、やつぱり間違つてなかった。リッキーさんが自分で種明かししてくれた。ぼくらはみんな「しょせん小学生」で、そんなぼくらに、あのひと、営業用スマイルでここにこ笑つてたんだ。ぼくが営業用わんぱく少年にならなかったから、あんなにむかつてたんだ。

パパの返事は聞こえない。うつむいて黙りこくっているのだろうか。そんなの嫌だ。絶対に嫌だ。

ぼくはベッドから降りて、ドアに耳をつけた。

「失礼ですが、圭太くん、東京でも友だちが少ないタイプじゃないんですか？　ちよつとね、学校でもあの調子でやってるんだとしたら、心配ですよねえ。お父さんも少し……」

言葉の途中で、大きな物音が響いた。机かなにかを思いきり叩いた、そんな音だった。

ぼくはドアをちよつとだけ開けた。正面はリッキーさんの背中、その脇から、机に両手をついて怖い顔をしたパパの姿が見えた。

ケンカになるのだろうか、とドアノブに手をかけたまま身を縮めた。でもパパは静かに言った。

「圭太は、いい子です」

「いや……あの、ぼくらもですね、べつに……」

リッキーさんの言い訳をさえぎって、「誰になんと言われようと、あの子は、いい子です」と、今度はちよつと強い声で。

照れくさかった。嬉しかった。でも、なんとなくかなしい気分にもなった。「ありがとう」より「ごめんなさい」のほうをパパに言つてしまいそうな気がして、そんなのヘンだよと思つて、「いい子」の意味がよくわからなくなつ

て、困っていたら手に力が入ってドアノブが回ってしまった。

（重松清 『サマーキャンプへようこそ』）

※1 籾・・・・・魚を捕える仕掛け

※2 肥後守・・・・・簡易の折りたたみナイフ

※3 燻製・・・・・煙が多く出るよう燃やして作る食品

※4 アポロキャップ・・・・一九七〇年代にはやった野球帽型の帽子

問一 ——部①「そういう笑い方」とは、どのような笑い方か。その内容としてもっともふさわしいものを次から記号で選び答えなさい。

ア 無邪気になにこにことする笑い方

イ 大人には喜びが伝わらない笑い方

ウ 相手がかいやかな感じのする笑い方

エ 純粹に笑顔で大きい声を出す笑い方

問二 ——部②「こんなの松原先生の主観なんだもん」にはぼくのどのような思いがこめられているか。もっともふさわしいものを次から記号で選び答えなさい。

ア 松原先生だけからみた評価であるという思い

- イ 松原先生はすべての生徒に厳しいという思い
- ウ 松原先生はぼくのママとは合わないという思い
- エ 松原先生は平等に物事を見ているという思い

問三 — 部③「突っ伏し」・⑥「気詰まり」・⑧「へっぴり腰」・⑩「デリカシー」について、本文中の意味としてふさわしいものをそれぞれ記号で選び答えなさい。

③ 突っ伏し

- ア ものを強く突き刺し
- イ きちんと座り直し
- ウ 八つ当たりをし
- エ 急にうつぶせになり

⑥ 気詰まり

- ア 周囲に気をつかって窮屈きゆうくつなこと
- イ すべてに飽きていやになること
- ウ 怒りがこみ上げあたまにくること
- エ のどにつかえて激しくむせること

⑧ へっぴり腰

- ア 他人に疑問を持ち仕方なくやっている状態
- イ しっかりとした気持ちで安定している状態
- ウ 中途半端でいかにも自信のなさそうな状態
- エ 周囲の人を無視し自分勝手にしている状態

⑩ デリカシー

- ア リーダーシップがまるでないこと
- イ 心の細やかさや人を気づかうこと
- ウ 人に気づかれないよう過ごすこと
- エ 人前で手本になるよう見せること

問四 次の一文が入る箇所を文中の (a) ～ (d) から選び記号で答えなさい。

・でも、この笑い方がだめなのかな、と気づくと、笑顔はあつという間にしぼんでしまった。

問五 — 部④・⑤の「誤解」とは、ここではそれぞれ何のことか。その内容としてもっともふさわしいものを、

次から記号で選び答えなさい。

④ 「誤解」

- ア ぼくが使う先生の嫌がる言葉のこと
- イ 先生が昨日パパに面談で話したこと
- ウ ぼくがママを励まして言ったこと
- エ 通知表に書かれた生活の記録のこと

⑤ 「誤解」

- ア ぼくが楽しくなると人を気にしないこと
- イ 笑い方がパパをバカにしたように見えること
- ウ 学校では気が合う人がだれもないこと
- エ パパやママにいつも困った顔をすること

問六

——部⑦「それをまとめて「大自然」と言われたら、ぜんぶつくりものみたい」と思うのはなぜか、もつともふさわしいものを次から記号で選び答えなさい。また、この内容と同じものとして例えて・いる・もの・を十九字で抜き出しなさい。

ア そこまで大きな自然ではなく家もビルもあるから。

イ 森林や動物もこの企画のために用意されたものだから。

ウ リッキーさんの考えの中で範囲が決まっているから。

エ リッキーさんが嫌々自然という言葉を使っているから。

問七

文中の（ 1 ） ・ （ 2 ） ・ （ 3 ） に入る漢字二字を文中からそれぞれさがし答えなさい

問八

「 $\wedge$  X  $\vee$ 」空欄に入る四字熟語としてもつともふさわしいものを次から記号で選び答えなさい。

ア 適材適所    イ 八方美人    ウ 言語道断    エ 我田引水

問九

——部⑨「ぼくは顔をそむけ、班分けして以来初めて、自分のほうからみんなの輪に入っていった。」の行動から読み取れるぼくの気持ちとしてもっともふさわしいものを次から記号で選び答えなさい。

ア 大人たちが好きなように楽しんでいることがくだらなく思い、ぼくの方は積極的に意味のある行動をしようという思い。

イ ぼくにだけいいところを見せようと格好つけているパパの姿に嫌気がさし、こちらはこちらで楽しもうという思い。

ウ 頑張るパパが大人たちから仲間はずれにされている気がしたので、ぼくが仲間の入り方の手本を見せようという思い。

エ このキャンプに来て積極的に頑張ろうとするパパの行動が空回りし、ぼくはそれを見ているのが耐えられない思い。

問十

本文の内容としてふさわしくないものを二つ選り記号で答えなさい。

ア パパは丸太が運ばれてきた時、待ってましたというふうにかけ寄ったが、そつ気ない手振りでおじさんに断られ、ぼくにはパパがどの父親より一番頼りなさそうに見えた。

イ この『わんぱく共和国』で感じていたものは、リッキーさんがパパに発した「しよせん小学生」という言葉で納得し、営業用わんぱく少年を作らない場所だとぼくは思った。

ウ リッキーさんはケガをしたぼくを心配しているだけでなく、ぼくに対して参加する意志が見られないことや、何をやってもつまらなそうな態度をとることを良く思っていないかった。

エ ぼくのある行動にリッキーさんは何か信じられないものを見たような顔になってイエローカードを出したとき、ぼくは「自由」という言葉が「自由」ではないと思った。

オ 河原で五人一組の班になったメンバーは全員ぼくと同じ五年生だったけれど、学校の同級生だったら間違いなく仲良くなるだろうという人の集まりだと思った。

カ リッキーさんが、歌集を出してみんなで歌おうと盛り上げている時、ぼくは、いつもならこの時間は塾の日曜日の模試を受けているということを思い出した。

キ このキャンプでパパと周囲の大人たちと関わり、上手くコミュニケーションはとれなかったけれど、ぼく自身、ひねくれて子供らしくないなどとは思わなかった。

ク ロープに乗って飛ぶ動作時に、パパがひとりぼっちで、組み上がったカマドの周りのゴミを拾っていた姿が目に入ったことがぼくがケガをした理由の一つである。

二 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

「夕焼け」 黒田三郎

① いてはならないところにいるような  
ころのやましさを

それは

いつ

どうして

僕のなかに宿ったのか

（②）夕焼け雲のように

大都会の夕暮の電車の窓<sup>まど</sup>ごしに

僕はただ<sup>③</sup>黙<sup>もく</sup>して見る

夕焼けた空

昏<sup>たそが</sup>れ残<sup>こぼ</sup>る梢<sup>※1</sup>

灰色の建物の起<sup>き</sup>伏<sup>ふく</sup>

影<sup>かげ</sup>

④ 美しい影

醜<sup>みにく</sup>いものの美しい影

※1 梢：木の幹や枝の先。

問一 この詩の種類として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 文語定型詩    イ 文語自由詩    ウ 口語定型詩    エ 口語自由詩

問二 —部①「いてはならないところにいる」時の様子を表したものととして最も適切なものを次から選び、記

号で答えなさい。

ア 好奇心こうきしんに満ちあふれ、希望を抱いている。

イ 未知の世界に来てしまったような違和感いわを覚えている。

ウ かくしごとがばれないようにあえて堂々としている。

エ 落ち着かず、そわそわし、いたたまれない気持ちでいる。

問三 (②) に当てはまる言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 色あせた    イ 色とりどりの    ウ 赤一色の    エ 真っ白な

問四 —部③「黙して見る」とありますが、なぜ「僕」は「黙して」いたのですか、その理由を述べた次の文の

( ) に当てはまる言葉を詩中より十字以内で抜き出して答えなさい。

自分が ( ) を抱えていたから。

問五

——部④「美しい影」とありますが、詩人は「美しい」という言葉にどのような思いを込めていると考えられますか、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア この世のあらゆる存在は、表面的な美しさによって、その醜さを包み隠している、恐ろしい存在であるという思い。

イ 美しく見えるものは、どんな存在であっても多くの長所を持つ存在であり、その美しさを失うことはないという思い。

ウ どんなに美しく見えるものでも、表面からは判断することのできない悲しみや醜さがあるという思い。  
エ 醜さや弱さを抱えている存在だからこそ、見た目の美しさを常に追求し続けるものなのだという思い。

問六

この詩で用いられている表現技法について述べたものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 擬態語を多用することで、詩にリズムを生み出している。

イ 詩の冒頭に、擬人法を用いて、詩に現実味を見出している。

ウ 自分が見たものを、体言止めを用いてえがくことで、より具体的に想像させ、印象付けている。

エ 直喩を用いることで、筆者の心情をより分かりやすく表現しようとしている。

問七

この詩の特徴とくちょうについて述べたものとして**不適切**なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の心の中にある罪の意識は、表面から見ると誰だれもわからないということを街の様子さまじに喩たとえて表現している。

イ 第一連では、自分の心にある影に気づきながら、見て見ぬふりをする己の姿をえがいている。

ウ 自分が抱かかえている心の葛藤かつどうを、日常生活の様子をえがきながら客観的に見ている。

エ 第二連では、日常を具体的な風景や色を用いて読者に明確に想像させている。

三 次の俳句に関する問いに答えなさい。

1 五月雨を集めて早し最上川

2 この道の 富士になり行く 芒すすきかな 河東碧梧桐

問一 1の俳句について、次の問いに答えなさい。

① この句は、『奥の細道』に掲載けいざいされている俳句ですが、その作者は誰だれですか、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 松尾芭蕉    イ 与謝蕪村    ウ 小林一茶    エ 正岡子規

② この句の季語を抜き出し、その季節を答えなさい。

③ この句について述べたものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 五月雨によつて、最上川の水量が少しずつ増していく様子に、恐怖きょうふを抱いている。

イ ふだんは水量が少ない最上川が、降り続く五月雨によつて豊かな川になつていることを喜んでいる。

ウ 日本三大急流の一つである最上川が、まるで五月雨をすべて集めたように水をたたえて、うわさどおり勢いよく流れていることに、感動している。

エ 最上川周辺地域がすすしいのは、この最上川の急な流れのおかげなのだ、その豊かな自然環境かんきやうに感謝している。

④ この句を参考にして詠まれたと考えられる作品はどれか、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 五月雨や上野の山も見あきたり

イ ずんずんと夏を流すや最上川

ウ 最上川逆白波のたつまでにふぶく夕べとなりにけるかも

エ 五月雨の音に包まれ目覚めれば窓辺に咲きし山吹の花

問二 2の句について述べたものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア この道のどこに、富士山へとつながる道があるのだろうか。生い茂る芒よ、教えておくれ。

イ この道が、富士山になったのだなあ。生い茂る芒によつて見えなくなっているけれど。

ウ この道を進んでいけば本当に富士山にたどり着くのだろうか。辺り一面に、不気味に芒が生い茂っているものだ。

エ 辺りには、芒が一面に生い茂っていることよ。この道が、遠くに見える富士につながっているのだ。

四 次の文章を読み、あとの文法に関する問いに答えなさい。

これはアミノ酸発酵<sup>はっこう</sup>などを引き起こすコウジカビ菌<sup>きん</sup>の優秀<sup>ゆうしゅう</sup>性に由来するもので、とくにタンパク質やデンプン質類に対して高い分解能力を有するニホンコウジカビ菌（アスペルギルス・オリゼー）を利用してゐるため、美味しい味噌<sup>みそ</sup>・醤油<sup>しょうゆ</sup>・日本酒・酢が製造されている。この種の菌は、日本の国菌<sup>A</sup>として認定<sup>A</sup>されており、わが国独自のコウジカビ菌で、日本でのみ<sup>①</sup>繁殖<sup>はんしよく</sup>している。これは長年にわたる選抜<sup>せんぱつ</sup>育種の成果であり、先人の（2）によつて創り出された独自のコウジカビ菌ということになる。こうしたすぐれた醸造<sup>じょうぞう</sup>技術によつて、大豆を原料とした味噌や醤油などの重要な発酵調味料が生み出されたのである。（原田信男『豆腐の文化史』）

問一 部A～D「れ」のうち、他のものと働<sup>はたら</sup>きがちがうものを一つ選び、記号で答えなさい。

問二 部①「繁殖している」の主語は何か、次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 美味しい味噌・醤油・日本酒・酢が
- イ この種の菌は
- ウ 認定されており
- エ コウジカビ菌で

問三 （2）に当てはまる言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 忍耐<sup>にんたい</sup>
- イ 常識
- ウ 努力
- エ 習慣

五 次の文章を読み、あとの言葉に関する問題に答えなさい。

本日、このような大きな賞を頂くことになり、感謝いたします。

表彰式に先立ち、母が予定より十分おくれて、<sup>①</sup>いらつしやると<sup>②</sup>申しておりましたことをおわびいたします。

現役からの引退を表明したのち、最後の試合でこのように想像以上の結果を残すことができたことは、  
「<sup>③</sup>」<sup>④</sup>というとおり、結果や成績を残すことだけを意識して、<sup>あせ</sup>焦ったり、あえて難しいことをしようとしたりせず、基本に立ち返り、日々、練習をくり返してきたからだと思っております。どのような競技であっても、<sup>みが</sup>技を磨くということは<sup>④</sup>には成し遂げられることはありません。それでも、自分の好きなことを続け、<sup>5</sup>ユウシユウの美を飾ることができ、これまで支えてくださったすべての方に感謝しております。

問一 ——部①「いらつしやる」・②「申して」という敬語表現は、文脈上正しいですか、正しければ「○」を、間違っているならば正しい表現に直しなさい。

問二 ( ) ③ ( ) に当てはまる言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 急いで仕事をし損じる

イ 弘法も筆の誤り

ウ 馬子にも衣装

エ 背に腹は代えられない

問三 ( ④ ) には、「朝から晩まで、一日、一晚」のような「わずかな時間」という意味の次の四字熟語が入りますが、□にそれぞれ適切な漢字を一字ずつ入れ、四字熟語を完成させなさい。

一 □ □ □ □

問四 — 部⑤ 「ユウシユウ」を漢字で書いた際、どの漢字を当てはめるのが適切ですか、次から選び、記号で答えなさい。

ア 優秀    イ 有秋    ウ 有終    エ 有収

六 次の一 部カタカナを漢字に直しなさい。

- 1 生徒会役員選挙の応援エンゼツおうえんをする。
- 2 道路のカクチヨウ工事が始まる。
- 3 コンクリートの壁かべの中に、クダを通す。
- 4 新米がシュツカされた。
- 5 カンパが列島をおそう。

七

次の——部の漢字の読みをすべてひらがなで答えなさい。

- 1 先生の話し方から、「大切なこと」であることを察知する。
- 2 目鼻立ちのはっきりとした、面長の人がいた。
- 3 新築工事に着手する。
- 4 用件は承りました。
- 5 伝統を子孫に受けつぐ。



